

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370700573		
法人名	株式会社 パシフィック		
事業所名	グループホーム まりん		
所在地	名古屋市昭和区恵方町1丁目35番地 パックス恵方3. 4階		
自己評価作成日	平成26年 1月12日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JgyosyoCd=2370700573-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の特徴を生かして家庭に近い、くつろいだ雰囲気を作っています。母体の株式会社パシフィックは、
 幼児教室も運営している為、幼児教室の行事があると、子ども達から招待状が届き参加する事により、
 利用者の方も子ども達と楽しそうに過ごされます。また、年間行事のなかで御家族合同の行事もありまして、夏祭りだったり、忘年会といった行事を通して、御家族と利用者様、ご家族と職員との関係を築く事で、グループホームまりんがひとつの家族の様な関係になれるように、取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域の身寄りのない独居生活者等、困難な境遇にある利用者も行政や他の事業所の相談を受けて可能な限り受入れ、温もりのある利用者、職員の共同生活に取り組んでいる。
 利用者の普通の暮らしを継続できるよう、ホームの玄関に続く昇降機を配置した急な階段の上り下りを、利用者の足腰の鍛錬の機会とし、利用者の意思を確認の上支援している。
 掃除や洗濯物干し、他の利用者の世話等、日々の生活においても利用者のできることは利用者同士の互助によって支え合う機会を多く持ち、ホームでの暮らしが利用者を主役に何事にも利用者の自主選択を大切にしたい暮らしとなるよう取り組んでいる。職員の利用者への思いは熱く、最期の棲家として親のように大切に支援したいと心一つにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「一人一人に合った、その人らしい生活を営んでいただく」として、一人一人の尊厳を守りながら、家庭的な環境作りを心がけている。また月1回の会議を通し、本人様にあった生活を職員で考えている。	理念の骨子「その人らしい生活を営んでいただく」を掲げ、利用者の選択、利用者のペースを大切に支援している。職員を相手にオセロゲームを楽しんだり、猫を居室で飼い面倒を見る等、利用者の思いに沿う支援がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内で行われる敬老会、運動会に参加しており、近所の小・中学校の行事などにも積極的に参加している。	町内会に加入し、地域の敬老会、小・中学校の行事に参加している。中学校の運動会では学校から電話で招待を受けた。複数の中学校の生徒の訪問を受け入れ、利用者は買い物や会話の交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接的な取り組みは行っていないが、町内会などに参加した際に、近所の方から相談を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見は、申し送りや会議の場を通し伝え、サービスの向上にむけて話あう。	年6回開催の運営推進会議は、利用者、家族、地域、ボランティア等が参加し、意見交換の機会としている。時には会議を法人の祭りと同時開催とし、参加者がホームの運営や利用者の理解につながるよう努めている。	行政の参加を得るよう働きかけ、多くの視点から意見交換を行い、実践に反映するよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当の方とは積極的に連絡を取っている。また地域包括センターの推進会議に参加しサービスの向上に向けて話し合いがもたれている。	行政と相談の上、独居や生活保護の利用者を可能な限り受入れ、行政と協働する関係を築いている。入居後も利用者の暮らしを行政と共に支え、常に報告や相談を行って連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、他の事業者と出入り口を共有している為と安全確保の為施錠している。その他の身体拘束に関しては行わないケアを心がけている。	座位のとれない利用者は、食事を摂る時も拘束ベルトを使用せず、工夫して座位を確保している。安全確保のためやむを得ない場合は、家族の同意を得て最低限の拘束にとどめており、職員もその弊害を十分に理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員ではないが、研修に参加し会議の場などで職員に対し、フィードバックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用している方はいないが、学ぶ機会をもうけたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の際は管理者が契約書及び重要事項説明書を読み合わせ、説明し、質問等に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方に関しては、日々の会話を通じて。御家族に関しては、面会の際や食事会といったもので意見を聞く機会を設けている。	家族や身元引受人に対し、ホームの便りに利用者の様子を写真付きで伝え、訪問時や電話を使い意見を聞くキッカケにしている。利用者との会話やテレビの番組を観て発する思いを拾い、実践に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的には管理者が受け、その後代表者へ報告し、代表者と管理者の会議の場で話し合う。	職員は定着しており、管理者と忌憚無く意見交換の言える関係を築いている。利用者の日常の支援の中から聞き取りを行って即時対応し、月1回の職員会議では様々な事項を検討し、情報共有する場としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の申し送りの中で、代表者に報告。会議の場や、個々との話し合いによって話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関しては、会議の場で話し合っている。また個々にあった研修を推薦する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他の施設との交流に参加している。その場でいいと思う事に関しては、実行できる様に環境を整える努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お茶などを一緒に飲みながら、お話を傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際にご家族の要望等を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族のお話を聞き、カンファレンスや会議などの場で話し合い必要に応じてサービスを提供している。(現在では訪問マッサージの利用等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に関して家族の様な関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に関しても遠慮なく発言をしていただく様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事にお誘いし、いつでも訪ねてきていただくよう面会時間などは設けていない。	外国人の知人から定期的に国際電話を受ける利用者は、電話越しの交流がある。花好きの利用者は毎月職員と活け花教室に通い、猫好きの利用者は居室で猫を飼い、馴染みの喫茶店では店主の歓迎を受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通し、輪の中で生活して頂く様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などに元利用者の御家族にも招待状を送っている。また面会等を通じ相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通し、会議やカンファレンスで話し合い検討している。	利用者の思いや意向を、利用者職員との何気ない会話や仕草から探り取り、テレビの旅番組を観ながら「食べたい」、「行きたい」を読み取り、「介護記録」に在りのままを記すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前は独居していた方が多いが会話を通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、状態の把握に努めている。また申し送り等で職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とは日々の会話にて意見を聞く様になっている。また御家族に対しても、面会の際に状態の報告を行い御家族様の希望もカンファレンスの場で話し合い反映している。	3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。支援の中で掴んだ利用者の意向を毎月職員全員で話し合い、計画を立案している。利用者の状態に変化のある場合は、その都度見直している。	利用者の身体に関わる改善、対処のプランが多い。利用者、家族(身元引受人)との意見を確認し、思いや意向を反映した「その人らしい」プランの作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアプランに関しては、毎日個別のカルテに記入している。また申し送り、会議、カンファレンス等の意見を共有する場を多くし、見直しを行うようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院以外の病院への付き添い介助、ご家族の状況や、希望に添える様な支援を行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の小学校、中学校などの運動会へ参加。 また、餅つき大会、敬老会などにも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族の希望を聞き、かかりつけ病院への受診へ同行し日常の状況等を適切に伝え、指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医はホームの良き理解者として法人の看護師と連携し、月2回の往診を実施している。必要があれば、往診日に限らず利用者を診ている。身寄りのない利用者も多く、外来受診は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に観察し何か気付く事があれば、看護師や往診医に相談をしながら適切な受診を行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には担当医や御家族から状況を把握し退院に向け、受け入れ態勢を作る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化した場合の対応及び見取りに関する指針を契約時に書面上にて説明している。またそのような場合になった際には御家族との話し合いの場を設ける様にしている。	入居時にホームの看取りの指針を説明している。利用者、家族からホームでの看取りの希望のある場合は、協力医、看護師も交えて話し合いを重ね、これまでも多くの看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはと言えないが職員が順序 研修を受け入れるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制の取り組みは始めたばかりだが、職員の避難訓練は以前より定期的に行っている。	年2回の訓練を実施している。ホームはビルの3、4階に位置しており、消防署のハシゴ車を使いハシゴを掛ける位置を消防署と確認している。職員連絡網、通報装置を整えて有事に備えている。	1ユニット6名の利用者の夜間の支援は1名の職員配置としている。夜間の災害発生時の職員の対応には限界がある。消防団の協力など、地域と協力する関係構築を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者個人個人の人格を把握し日々言葉かけに関し気を付けている。	利用者の誇りを大切に、出来ることは支援を避け、買い物や家事等の利用者の関わる機会には意思の尊重、利用者の選択を重んじている。入浴、排泄など異性の苦手な利用者には、同性の介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を主張できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿った生活を送ってもらおうと努めているも、個々にあったペースでは出来ていない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の化粧水等、こだわりがある方に関しては、一緒に買い物へ行く等の支援は行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業に関しては出来る方に行っていたり声掛けをしている。片付けに関しては一部の入居者の方が率先してやっていただける。	家庭と同様に、利用者と食材の買出しに出かけ、冷蔵庫の食材を見てその日に献立を決め、職員が手料理を作っている。自立度の高い利用者の魚料理はあえて骨を残し、普通の暮らしの継続を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常時水分摂取量、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行っている。週に一度歯科衛生士による口腔ケア、月に一度歯科医師による往診行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧な方に関しては定期的なトイレ誘導も行っている。排泄のパターンを把握の為排尿チェック表も使用。	排泄記録を取り、排泄の間隔に注意を払い、排泄の時間の空く場合は適切に声をかけ、失禁なく清潔を保つ支援に努めている。自立排泄の可能な利用者には支援を避け、見守りに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用や便秘がちな方に関しては水分を多く摂取していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては体調に考慮し基本的には毎日入浴していただく。また、その方一人一人にあったタイミングで入浴していただく。	利用者の希望に応じ、毎日の入浴を支援している。身体能力や体調に不安のある利用者は湯船の入浴とせず、冬場は暖房を入れてシャワー浴に留めている。入浴剤を入れ、季節の菖蒲・柚湯の支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に対し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時全職員に状態の変化等伝えている。又、内服薬に関しても、処方箋を元に目的や副作用等理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割を持っていただけるように努めている。また、外出、買い物、行事など気分転換も行えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り、希望に沿った支援が出来る様には努めているが、一人一人にあったものとは言えない。普段いけない様な場所には御家族にも理解や協力をしていただけるよう努めている。	利用者の自立度に差のあることから、利用者個々に合った外出を支援している。日課の散歩、喫茶店、買い物、イチゴ狩り、水族館と、利用者の意向を反映した個別外出としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	過去には小額の金銭は管理されていた方もみえたが、現在では金庫保管となっている。近所に買い物へ行った際に支払いをしていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本的に使用していただけるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はその季節にあった物を使用。また利用者の方が制作されたフラワーアレンジメントも飾っている。	華美な掲示もなく、一般の家庭の造りに和室、洋室、台所の部屋を配置している。利用者と職員は台所のテーブルでオセロゲームを楽しみ、和室に寝転んでテレビを観たり昼寝をしたり、自由に過ごす穏やかな家族の空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の広さの問題で一人になれる場所を作るのが難しい。気のあった入居者の方とは思い思いの場所にてコミュニケーションをとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には入居の際には馴染みのある家具や布団といったものを持ち込んでいただくようにしている。	利用者の今までの習慣に合わせ、ベッドと床に布団を敷くことを自由に選択している。利用者愛用の家具、ぬいぐるみ、テレビ、家族の遺影等が持ち込まれ、猫を飼う利用者もあり、職員も加わって猫の面倒を見ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば歯ブラシなどに関しては名前を解りやすい様に書き込み口腔ケアの自立や御自分のものだという、認識ができています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370700573		
法人名	株式会社 パシフィック		
事業所名	グループホーム まりん		
所在地	名古屋市昭和区恵方町1丁目35番地 パックス恵方3. 4階		
自己評価作成日	平成26年 1月12日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2370700573-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の特徴を生かして家庭に近い、くつろいだ雰囲気を作っています。母体の株式会社パシフィックは、幼児教室も運営している為、幼児教室の行事があると、子ども達から招待状が届き参加する事により、利用者の方も子ども達と楽しそうに過ごされます。また、年間行事のなかで御家族合同の行事もありまして、夏祭りだったり、忘年会といった行事を通して、御家族と利用者様、ご家族と職員との関係を築く事で、グループホームまりんがひとつの家族の様な関係になれるように、取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「一人一人に合った、その人らしい生活を営んでいただく」として、一人一人の尊厳を守りながら、家庭的な環境作りを心がけている。また月1回の会議を通し、本人様にあった生活を職員で考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内で行われる敬老会、運動会に参加しており、近所の小・中学校の行事などにも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接的な取り組みは行っていないが、町内会などに参加した際に、近所の方から相談を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見は、申し送りや会議の場を通し伝え、サービスの向上にむけて話あう。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当の方とは積極的に連絡を取っている。また地域包括センターの推進会議に参加しサービスの向上に向けて話し合いもたれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、他の事業者と出入り口を共有している為と安全確保の為施錠している。その他の身体拘束に関しては行わないケアを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員ではないが、研修に参加し会議の場などで職員に対し、フィードバックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用している方はいないが、学ぶ機会をもうけたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の際管理者が契約書及び重要事項説明書を読み合わせ、説明し、質問等に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方に関しては、日々の会話を通じて。御家族に関しては、面会の際や食事会といったもので意見を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的には管理者が受け、その後代表者へ報告し、代表者と管理者の会議の場で話し合う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の申し送りの中で、代表者に報告。会議の場や、個々との話し合いによって話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関しては、会議の場で話し合っている。また個々にあった研修を推薦する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他の施設との交流に参加している。その場でいいと思う事に関しては、実行できる様に環境を整える努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お茶などを一緒に飲みながら、お話を傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際にご家族の要望等を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族のお話を聞き、カンファレンスや会議などの場で話し合い必要に応じてサービスを提供している。(現在では訪問マッサージの利用等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に関して家族の様な関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に関しても遠慮なく発言をしていただく様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事にお誘いし、いつでも訪ねてきていただくよう面会時間などは設けていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通し、輪の中で生活して頂く様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などに元利用者の御家族にも招待状を送っている。また面会等を通じ相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通し、会議やカンファレンスで話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前は独居していた方が多いが会話を通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、状態の把握に努めている。また申し送り等で職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とは日々の会話にて意見を聞く様に行っている。また御家族に対しても、面会の際に状態の報告を行い御家族様の希望もカンファレンスの場で話し合い反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアプランに関しては、毎日個別のカルテに記入している。また申し送り、会議、カンファレンス等の意見を共有する場を多くし、見直しを行うようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院以外の病院への付き添い介助、ご家族の状況や、希望に添える様な支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の小学校、中学校などの運動会へ参加。 また、餅つき大会、敬老会などにも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族の希望を聞き、かかりつけ病院への受診へ同行し日常の状況等を適切に伝え、指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に観察し何か気付く事があれば、看護師や往診医に相談をしながら適切な受診を行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には担当医や御家族から状況を把握し退院に向け、受け入れ態勢を作る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化した場合の対応及び見取りに関する指針を契約時に書面上にて説明している。またそのような場合になった際には御家族との話し合いの場を設ける様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には言えないが職員が順序 研修を受け入れるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制の取り組みは始めたばかりだが、職員の避難訓練は以前より定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者個人個人の人格を把握し日々言葉かけに関し気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望を主張できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿った生活を送ってもらおうと努めているも、個々にあったペースでは出来ていない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の化粧水等、こだわりがある方に関しては、一緒に買い物へ行く等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業に関しては出来る方に行っていたり声掛けをしている。片付けに関しては一部の入居者の方が率先してやっていたり。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常時水分摂取量、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行っている。週に一度歯科衛生士による口腔ケア、月に一度歯科医師による往診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧な方に関しては定期的なトイレ誘導も行っている。排泄のパターンを把握の為排尿チェック表も使用。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用や便秘がちな方に関しては水分を多く摂取していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては体調に考慮し基本的には毎日入浴していただく。また、その方一人一人にあったタイミングで入浴していただく。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に対し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時全職員に状態の変化等伝えている。又、内服薬に関しても、処方箋を元に目的や副作用等理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割を持っていただけるように努めている。また、外出、買い物、行事など気分転換も行えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り、希望に沿った支援が出来る様には努めているが、一人一人にあったものとは言えない。普段いけない様な場所には御家族にも理解や協力をしていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	過去には小額の金銭は管理されていた方もみえたが、現在では金庫保管となっている。近所に買い物へ行った際に支払いをしていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本的に使用していただけるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はその季節にあった物を使用。また利用者の方が制作されたフラワーアレンジメントも飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の広さの問題で一人になられる場所を作るのが難しい。気のあった入居者の方とは思い思いの場所にてコミュニケーションをとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には入居の際には馴染みのある家具や布団といったものを持ち込んでいただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば歯ブラシなどに関しては名前を解りやすい様書き込み口腔ケアの自立や御自分のものだという、認識ができています。		